日本 G.A.P. ニューズレター

1 9 6 2

9 . 10



日本**GAPニューズレター 1962-9**月10月号

一	
	i
絶 滅 G・アダムスキ	1
論 理 ······ C・A・ハニー	4
質 疑 応 答 C・A・ハニー	7
《宇宙哲学》そ の 3	11
・感情のバランス	11
・自由意志か自己催眠か	13
• 信 念	14
・進 化 の 道	17
編 集 後 記	19
	[

絶

滅

ージ。アダムスキー

ジョ

閉じ込められています。よく調べてみますと、 生じてきます。殆どの生命界に寄生虫が存在するように、 があります。人生は一面だけで成り立っているのではありません。 振舞って知的に見えるかもしれませんが、 めて個人的なもので、自己の行為の九○パーセントは個人的満足 にも寄生虫がいます。彼らは生きようという努力のもとに立派に 派なものでしたが、読者のなかにはそれを読んで当惑した人もあ ったようです。我々が人間の創造された目的を達成しようとすれ ためになされているのです。これは、宇宙の目的 先般のニューズレターの記事で(注 **がちょっと立ちどまって大抵の人の生き方を仔細に観察す 我々は甘いものとともに苦いものをもなめることを知る必要 、ます。 ハニー氏は人間の絶滅について書きました。その記事は立 一体人間は進化しようとしているのかどうかに疑問が ハニー氏のニューズレタ 自分自身の狭い世界に 彼らの努力はきわ からかけ離 人間界

めに不幸と悲惨とを生み出してきた人々のやり方を人間は一体見長年月のあいだいささかも変化することなく大多数の他人のた

物はその創造者に奉仕して報いるべきであって、自己の姿の栄光彼は実のなっていないイチジクの木を呪いましたが、これは、万

「良い実を結ばない木は切られて火の中に投げ込まれる一また、

しょうか。 して自分たちが始めた物事を何一つ達成しない人々を見たいのでたいのでしょうか。それとも戦闘的な人や、誤った噂をまき散ら

的に役立たないものを常に取り除くのです。 っちゅう かい、"宇宙の計画』からそれることはありません。自然はその目が、"宇宙の計画』からそれることはありません。自然は永続なは永続する生命の状態を学びとる必要があります。自然は永続を達成されないままに残したりはしません。このことからして我を達成されないままに残したりはしません。このことからして我を達成されないままに残したりはしません。

ればなりません。 からです。生命を持つためには永続する。もの ることができないからです。すなわち思想 かかる可能性がなかったならば我々はどちらか一方について考え うか。しかし人間の場合は違います。 する人もあるでしょう。この両方とも正しいのです。それはもし 可 ł۲ もなく腕は衰えて自分にとって役立たなくなってしまいます。 本の腕を自分の体に縛りつけてそれを全然使用しなければ、ま 無になると言うでしょう。逆に、生命は永遠に続くのだと主張 知論者を自称する人は、あなたがこの世を生き終わった時完全 これについては二つの考え方があります。無神論者または 宇宙の目的はに無用となった種は自然は排除しなかったでしょ 人間は一つの目的のために二本の腕を与えられましたが、もし これが、 イエスが次のように言った理由です。 (複数) は事物である がそれを得なけ

の人間はこれをやっているのです。を自分自身に帰せるべきではないという意味ですけれども、多く

自己が創造された目的に役立たねばなりません。イエスは次のように言っているではありませんか。「肉体を斬る者を恐れないでなく動物か爬虫類または植物となって生まれかわると教えています。これは火の中へ投げ込まれる木と同じことです。つまり、それは再び木にはならないのです。その一部はガスとなって放たれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうれ、その一部は風の前に灰として残り、再び利用されるでしょうたれ、その一部は風の前に灰として残りません。イエスは次のよりに言っているではありません。これは、マ宇宙の計画。に自己を一致させない人にもあてはまります。本人の各元素は(肉体の原子は)他の面で役立ち続けるでしょうが、一つの自我としての本子は)他の面で役立ち続けるでしょうが、一つの自我としての本子は)の本ではなりません。これは、マ宇宙の大は大きない。

るかもしれませんが(つまり個体としては死を経ることになるのと一体化するならば、個別的な水滴としての正体を失うことになった得るのです。一滴の水を例にあげますと、もしそれが自分で存在して自身の目的にのみ役立つだけならば、やがてそれは蒸発の生物的我自体のために存在します。このようにして自我は永遠の生が自我自体のために存在します。このようにして自我は永遠の生かが自我のです。一滴の水を例にあげますと、もしそれが自分で存在して自身の目的にのみ役立つだけならば、やがてそれは蒸発をあるかもしれません。しかしそれは滅びなければならないのです。ために生まれると述べてあるのです。それは一、二種類の死を経ために生まれると述べてあるのです。だからこそ聖書に俗念は滅びる自我とは個性または俗念です。だからこそ聖書に俗念は滅びる自我とは個性または俗念です。だからこそ聖書に俗念は滅びる

には蒸発して存在しなくなってしまいます。い生命とただ一滴の水としての体験だけを持つことになり、ついしょう。ところが、そうしなかったならばその水滴はきわめて短と一致させることになります。これは海洋が存続する限り続くでてのさまざまの体験を持つことになって、その体験を海洋の体験ですが)、しかしそれは永遠の生命を得ることになり、水滴とし

って蒸発して未来を失うかは、わからなかったわけです。 で自我としての正体を失うか、それとも元のままの状態にとどま 状態におちいってしまったのです。未知の大海のなかへ入り込ん れなかったからです。それが原因となって、水滴は絶えず不安の していたところの、何か自分よりも大きなものを感ぜずにはいら 多くの恐怖をつくり上げてしまいました。なぜなら、自分が服従 は自分自身と自分の幸福のみに関心を持ちましたので、その結果 分離した物としてその独立性を表わしていたわけです。その水滴 的な欲望のままになっていました。それは他のすべてのものから います。それは海洋の近くへ寄りつかず、孤立して、自身の利己 した魂として行動していました。我々はそれを "個体" と呼んで くのは、放蕩息子が謙虚な気持ちになって再び家へ帰り、家族と いるかがここでおわかりになるでしよう。水滴が海洋へ帰ってゆ と海洋の魂に属していた)、人間がどうして二つの魂から成って 一体化するのと似ています。水滴であったときの水は一つの独立 ちょうど水滴がその魂である生命を持ったように(この魂はも

は始めを持ったのと同じように終わりをも持つことになります。い」の意味です。もし自分の意志が元のままにあるならば、それこれが、「私の思いではなく、みこころのままになさって下さ

き、更に永遠をも生きることになるのです。化した水滴はどれも海洋と同じ性質を持つことになり、今日も生海洋は目に見えるような始めも終わりも持たないのでそれと一体

た三つの実例を分析してみることにしましよう。なります。このことをよりよく理解するために、私の注意をひいならなければ、本人は始めを持ったと同様に終りをも持つことに人間もこれと同様です。自己の意志が『宇宙の意志』と一体に

いません。は自分の妹をそれと見分けることができず、また苦痛をも感じては自分の妹をそれと見分けることができず、また苦痛をも感じていだ彼女は地上の体験の記憶を次第に失ってきました。現在彼女例一、或る婦人が十五年間も寝たきりになっています。そのあ

現在本人は肉体以外は全く死んだも同然です。間死につつあったのですが、始めは全く不快だったことでしょう。は残ることになります。この人はたしかに記憶においては十五年るのです。これが続くならばついには骨だけになりますが、遺物体の物質が元のガスとカーボンの状態に返ってゆくように思われるかです。をはなの肉体は完全な状態にあるのですが、ただ体が次第に柔らか彼女の肉体は完全な状態にあるのですが、ただ体が次第に柔らか

を造り出す。宇宙の魂。なのですが、しかるに同じ自我はなくて完全に死んだときも引き続いて作用します。これは更に別な肉体的なもので、本人の心はなくても現在やっているように、肉体が明在その肉体をコントロールしている力(複数)は宇宙的、普遍はに関する唯一のものであるからです。この人は自分がかつての我に関する唯一のものであるからです。この人は自分がかつての

でしょう?。

と融合するものは何も持っていないわけです。と融合するものは何も持っていないわけです。 彼女は宇宙ないたのです。彼女の一部である宇宙の諸原理をかえりみる余裕はありませんでした。彼女がこの人間のお世辞を利用し始めたとなったのです。彼女の一部である宇宙の諸原理をかえりみる余裕はありませんでした。彼女がこの人間のお世辞を利用し始めたとなったのです。彼女の記憶はこの世だけのものから成り立ったのです。来世にまで持ち越されるのは記憶なのですから、彼女は宇宙する来世にまで持ち越されるのは記憶なのですから、彼女は宇宙する来世にまで持ち越されるのは記憶なのですから、彼女は宇宙する来世にまで持ち越されるのは記憶なのですから、彼女は宇宙する中ではない。

思い出すことができず、誰をも識別できないことがありますが、の記憶の八○パーセントを失いつつあります。数日間彼は何事もント、宇宙的なものが二○パーセントありました。現在彼は自分例二、或る男がいてその人の興味は地上的なものが八○パーセ

はりこの実体を絶滅させることになるでしょう。ときどき自分の正体によく気づくようになったり、周囲の人たちというのの正の正は、自身の生涯においてこの人は自分を宇宙のです。というわけは、自身の生涯においてこの人は自分を宇宙がらです。というわけは、自身の生涯においてこの人は自分を宇宙がされて、それが宇宙内の一つの実体として存続するということです。この二度目のチャンスにおいてさえも、来世で生きるあいだに例の二〇パーセントに改善を加えなかったならば、本人はやだに例の二〇パーセントに改善を加えなかったならば、本人はやだに例の二〇パーセントに改善を加えなかったならば、本人はやだに例の二〇パーセントに改善を加えなかったり、周囲の人たちときどき自分の正体によく気づくようになったり、周囲の人たちときどき自分の正体によく気づくようになったり、周囲の人たちときどき自分の正体によく気づくようになったり、周囲の人たちなるでしょう。

例三、私は或る男を個人的に知っていました。彼は人間なるものに非常な関心を持っていましたので、人間性ということについて空間を見つめていました。彼はたしかに宇宙と融合していました。彼はたしかに宇宙と融合していましたので、その見地からして彼を聖者と呼んでいいでしょう。しかたので、その見地からして彼を聖者と呼んでいいでしょう。しかのに非常な関心を持っていました。彼はたしかに宇宙と融合していました。で間を見つめていました。彼はたしかに宇宙と融合していましたのに非常な関心を持っていましたので、人間性ということについのに非常な関心を持っていましたので、人間性ということについのに非常な関心を持っていました。彼は人間なるものです。

端というものはないからです。彼は永遠の生命を持つでしょう。めに地上の生活に返らねばならぬことを意味します。宇宙には極完全な均衡が存在するときです。これは本人がバランスをとるた完全というものが存在する唯一のときは、右の二つのあいだに

なりに存続することはできません。人間も同様です。なぜなら、彼は自身の地上の本体なくして既にそれを持つているのです。人間が本人の実体を持ったままで永遠の生命を持とうとするのならば、右の両方が一体化されなければやはそれは誤っており、また地上の生活をも考慮に入れなければやはそれは誤っており、また地上の生活をも考慮に入れなければやりません。 人間は活動するその法則を見ることができます。とりません。 人間は活動するその法則を見ることができます。とりません。 人間は活動するその法則を見ることができます。とからです。キリストが「万物のなかの中庸」と言ったとき、それが地上であるにのに存続することはできません。人間も同様です。

論



C

Α



おすすめします。それらを注意深く読んで、すぐれた生命観を得らば、図書館へ行って以下にあげる各図書をお読みになることを的な基礎を必要とします。この記事があなたに意味をなすものないあたって読破される記事や文章のすべてに論理をあてはめられてれまでに幾度も私は読者にたいして、より高い知識を求める

よき理解を持てるかどうかを考えてみて下さい。ることができるかどうか、そして現在の世界の状勢に関してより

が証拠を構成するか、すなわち完全な決定的な証拠とは何かの調 査に大体において応用されてきたものである」 に関係のあるものといっ かを見出すことができる。 を真実なるものと認める場合、 的であるとは合理的に論じることである。 次のような定義があります。 ト・ネイゲル共著の 論理とは何でしょうか。モーリス・R・コウヘン及びアーネス 論理と科学的方法』と題する著書のなかに てよいだろう。 論理とは異なる種類の証拠類の当

否性 「論理とは正しい推論である。 論理によって我々は次に何が来る しかし伝統的にそれは何 我々が或る一定の陳述 論理

ウソであっ れだとしますと、 は誤っています。また、 はウソです。 陳述に基づいた論理的な結論です。 のはみな青い皮膚を見せるということになります。 青い染料でできているということにします。 理を応用し始めてはいません。たとえ論理に基づいている陳述が 人は米国人です。 実際には我々は或る陳述から何らかの結論を引き出すまでは論 ても論理は正しいかもしれません。一例として、 始めの陳述は正しいのですが、あなたの信念が異なっ 別な例をあげましょう。 結論として、 しかしこれが実は今日の世の中に行われているき てあなたが私ほどに頭がよくないということに 始めの陳述は正しいのですけれども結論と論理 そとで米国人のすべてはケァリフォ あなたの信念は私の信念とは異なっ だからあなたはあまり頭がよくない しかしこの場合始めの陳述 ケァリフォ すると海中を泳ぐも ーニア生まれの これは始めの ーニア生ま てい 海は

わめて貧弱な典型的な論法なのです。

等々。 極端にむつかしいからです。 ちが同意している.| 「誰もが知っている.| 「数字が証明している 今日、人々のなかには自分の信念を裏付けるのにこれと同じ貧弱 かったら我々はどこかへ落ちる筈だ」ただそれだけのことです。 うならばこの種の誤ちをおかしていることになります。 論法を "外挿法" と呼んでいます。多くの人がもし次のように言 ならまだ起こっていない物事を立証したり論ばくしたりするのは この種の非論理的な論証を打ち返すのはきわめて困難です。 実から結論を一掃して、あまりに速断し予報などをしています。 な論理を応用する人があります。「私の牧師がこう言っている」 のようなものです。「それは平たく見えるじゃないか。平たくな 一般人は地球が平たいと信じていました。その論理というのは次 「私の先生がそれは真実ではないと言っている」「最高権威 長い年月を通じて人々は貧弱な論理を応用してきました。 貧弱な推論と誤った論理の多くの例が、どくわずかな事 科学者はこの種の予報や非論 なぜ

れ著書、条理整然とした考え方の指標。(一九五六年、ニューヨやれ著書、条理整然とした考え方の指標。(一九五六年、ニューヨやれば、民間事業にたいする完全な抑圧が起こるだろう」米国の対連の支配下に入るだろう」または「もしあの連邦の法案が通過ソ連の支配下に入るだろう」または「もしあの連邦の法案が通過ソ連の支配下に入るだろう」または「もしあの連邦の法案が通過リ連の支配下に入るだろう」または「もしあの連邦の法案が通過リ連の支配下に入るだろう」を

唱えられた進化論は、ビショッ プ・アシャーの説いた人類の起源 しました。その起源はたった数千年前ではなくて数百万年前でな が西紀前四○○四年であるという説をあまりに近年すぎると指適 有名な大論争に見出されます。ダーウィンとハクスリーによって 撃をしたりすることも非論理的な攻撃の一手段です。この誤りの もあるのだ... たしかにそのとおりです。他人を侮辱したり人身攻 ばかりでなく過去半世紀も昔の身寄りの者から罪が洩れ出ること 好例はビショッ プ・ウィルバーフォースとハクスリーのあいだの 係した社会や家族関係、 なたがかつて読んだあらゆる書物にあてはまるのである。ディヴ 者である。これと似たような推論法が実際にはあなたがかつて関 はハーヴァードへ行った。それゆえ読者(ジョン・ドウ)は破壊 ればならぬというわけです。 「多くの破壊者がハーヴァードへ行った。読者(ジョン・ドウ) ・リリエンタールはその両親が一八八〇年代にチェッ コス ソ連の衛星国になる五十年も前のことなのに――。現在 アから来たというので共産主義者だといって上院で非難 あなたがかつて書いたあらゆる言葉、あ

一の他の個所に見出されます。「病みついた心の持ち主だけが生本筋をごまかすものです。この誤りの別な例がこのニューズレタまたは精神状態について巧みな言葉を用いることによって問題のいずれの系統のサルの子孫なのか?」これは一個人の家系、信念のてハクスリーに質問しました。「あなたは母親側と父親側の論争のあいだにビジョップ・ウィルバーフォースは辛辣な皮肉を

よって用いられるだけです。れはきわめて貧弱な論理であり、提示すべき論証を持たない人によって問題の本筋をそらそうとするものです。いうまでもなくこまれかわり説を信じられるのだ一この例も他人を軽蔑することにまれかわり説を信じられるのだ一この例も他人を軽蔑することに

いるのです。

いるのです。

「すばらしい講演だった」すると友人は次のように
語ります。「たいしたことはないよ。奴は教育を殆ど受けていな
に言います。「たいしたことはないよ。奴は教育を殆ど受けていな
に言います。「すばらしい講演だった」すると友人は次のように
である人がアダムスキ氏の 或る人がアダムスキ氏の であるのです。

うか。もちろんかかる人々がそうです。 また或る人はいわゆる、原因と結果、説を誤って応用していま また或る人はいわゆる、原因と結果、説を誤って応用していま また或る人はいわゆる、原因と結果、説を誤って応用していま また或る人はいわゆる、原因と結果、説を誤って応用していま



凝 応 答

Commission of the property of

С . А

界では何らかの体を持つ 人間の死後の霊界には段階があるのですか。また霊 ですか。 (ジョ しジア州、アトランタ

 $E \cdot A \cdot B$

れらの遊星は地球と同様に物質的なものです。 が説いているような『霊界』なるものは存在しないということで 生を意味します。 るということで、 進化した人は自分の生まれかわりの場所を自分で選ぶことができ 限り、生存のための段階をもつ世界は存在しません。もちろんと す。さまざまの進化の段階にある各遊星をかかる場所と考えない いました。それは自分の計画通りになるのであって、肉体的な出 かしそう思わない人もあるでしょう。ブラザーズのあいだで特に のと思っています。それは論理的で筋が通っているからです。し する方法を持っていませんけれども、私は彼らの説明を真実なも ズの説明だけを認めている点をご諒承下さい。我々はそれを証明 死後及び出生前に何が起こるかに関して我々はブラザー イエスは地球への自発的な使節としてこれを行 ブラザーズの説明によりますと、今日多数の人

知識が存在しているのです。

全自然は形あるものでも形のないものでも(たとえばガス状の

がとなえているような "霊体だけで生きている人間" は存在しな んでいるのです。 いと言っています。人間はすべて地球によく似た固体の遊星に住 もの) "霊妙"

なのです。ブラザーズは、多くの自称神秘主義者

か。 (質問二) あらゆる遊星はそれ自体の霊界を持っているのです

右の答と同じことです。

すべての遊星は地球と同様に

じ宇宙の法則のもとにあります。すべては同じ創造者から生み出 (質問三) されているので、同じ法則に従うのが当然です。 これまでの読書と探求で私は宇宙の法則という言葉

を何度も見ましたが、まだ宇宙の法則一覧表というものを見たこ

教えのすべてが人間によって知られることはないでしょう。 て向上するにつれて絶えず新しい教えが現われますので、ア氏の かえれば、 受け入れられている教えとは異なるのですが、我々が知識にお 遊星の人々が応用している法則が述べてあります。それは とがありません。それを示して下さいませんか。 (答 アダムスキ氏著の『テレパシー (精神感応)』 我々が如何に高く進化しても我々の前には常に新しい K 一般に 他の

す。重要なのは、 もみがらの山のなかに埋もれた、真理。の実を認める人は少数で えられています。しかし一般人にとってかかる教えは神秘のマン トで包まれてしまい、空想的なものだとされてしまっ のものでもありません。それは大昔から哲学的な教えによって伝 宇宙の法則は地球の人間にとって新しいものでもなければ未知 "真実の哲学 (宇宙の法則)_" は、万物が生み たために、

く輝いている現象がそれです。太陽は人間の皮膚の色、性質の善れます。例をあげますと、太陽は正しい者にも不正な者にも等しせよ」また他の法則は自然の法則を観察することによって見出さものです。「他人からこうしてもらいたいと思うことを他人にもによって伝えられました。その多くはたとえば次のように自明な字宙の法則は聖書にあまねく述べられています。それはイエス字宙の法則は聖書にあまねく述べられています。それはイエス

るでしょう。こうしてこの運動は急速に地上で拡まるかもしれま

ゆがめているのだ」

ーは更に他の人へ宇宙の法則を伝えるほどに開発されることにな

をえこひいきしない」と聖書に述べてあります。悪、国籍別などを問題にしてはいません。この法則は「神は人間

あなたの独断的な教えによれば「正しく生きるなら

者のノドに独断的に詰め込むために、その説の元の意味をひどくとですが、次の個所についてはどのように説明しますか。(1)ルカとですが、次の個所についてはどのように説明しますか。(2)マタイによる福音書第七章二十一節。 (3)ローマ人への手紙第二章六、七節(マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マサチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセッツ州、ローレンス、ガイ・J・シル神父) (マカチューセックの音楽では、大の音楽の一つです。私は変調によるによる福音書第七章二十五節から正式がよりでは、大の音楽をひどくのスが、次の個所についてはどのように対している。 (コルカン) (コルカンス) (コルカン

題を捨ててしまうことになります。 の情ではないと確信します。病人ということになればとにかくこの問 なは読者の方々が病的な心の持ち主として非難を受けるような人 ともこの問題において聖職者らしくされることを望むものです。 ともこの問題において聖職者らしくされることを望むものです。 となえようとも何ら気にするものではありません。私はただその となえようとも何ら気にするものではありません。私はただその 質問の意味とはまるで筋違いのものです。 中の右の各引用節には天国という言葉さえ含まれてはいません。 とを約束しているだけです。永遠の生命というのは私がニューズ 後の報いとして天国へ行けるといった暗示のかけらをも示しては レターの哲学シリーズで述べてきたのと全く同じものです。聖書 いません。それらはただ永遠の生命とそれを得るための必要条件 は例をあげていますが、師の聖書からの引用である前記ルカ伝と これは教会が説いている意味と比較した上でのことです。シル師 で天国へ行けるということを聖書は約束していないと述べました。 しました。私は人間がこの世で如何に正しく生きても死んだあと イントを提示されたことなどにかんがみて、 その内容を熟知しておられること、 答を送る必要はないものとみなして通常無視することにしていま ーマ人への手紙中の個所は全然そんなことに関係なく、 しかしこの質問の場合はシル師が聖書を学んでおられること 人を非難するような手紙を私が受けとる場合、私はそれ 他の聖書研究家に共通したポ 例外を設けることに また死 に回

を言っているのではありません。聖書は、天の国。と、天のなかれば天「のなかに」いる父の意志を行なうならばその者は天「の」という言葉とin(のなかの)という言葉の相違を知って、天「のなかの」国でないことに注意して下さい。我々は誰もof(の)という言葉とin(のなかの)という言葉の相違を知ったいるをです。天「の」国へ入れるというのであ国に入るといっているのです。天「の」国へ入れるというのであ国に入るといっているのです。天「の」国へ入れるというのであっているのではありません。これはでタイによる福音書第七章二十一節はどうでしょうか。これはマタイによる福音書第七章二十一節はどうでしょうか。これは

るとは言いません。「の」飛行機がいると言いますが、米国「のなかに」飛行機がいランスに着陸するのと同じようなものです。その場合我々は米国らかにしています。それはあたかも米国から飛び出た飛行機がフの国"とは二つの異なる場所の異なる国であることをきわめて明の国"とは二つの異なる場所の異なる国であることをきわめて明

エスはウソつきだったのでしょうか。
エスはウソつきだったのでしょうか。
エスはウソつきだったのでしょう。ヨハネによる福音書だらがなぜ天国へ行かなかったのでしょう。ヨハネによる福音書が死んでから天国へ行っている状態を当然知っている筈であるにといわれています。そうだとすれば、イエスは前記の予言者たちといわれています。そうだとすれば、イエスは前記の予言者たちといわれています。そうだとすれば、イエスは前記の予言者たちといわれています。そうだとすれば、イエスは前記の予言者たちといわれています。そうだとすれば、イエスは前記の予言者たちといわれています。そうだとすれば、イエスは前記の予言者にあるが、などでからなります。

この世の国はキリストの支配下になるべき(言いかえれば宇宙のということを確証しています。ルカによる福音書第一章三十二節及びるということを認めてよいでしょう。聖書中の多くの文章は、いわゆる黄金時代と呼ばれる一千年間にこの地上にも天国が築かれるということを認めてよいでしょう。聖書中の多くの文章は、いわゆる黄金時代と呼ばれる一千年間にこの地上にも天国が築かれるとを確証しています。ルカによる福音書第一章三十二節及びることを確証しています。ルカによる福音書第一章三十二節及びることを確証しています。ルカによる福音書第一章三十二節及びることを確証しています。水の意味でなら、死後天国へ行けるということを認めてよいでしょう。

ってこの地上にも天国を確立することでした。 到来こそは、あらゆる国家が武力を捨てて平和に暮らすことによ法則に従うべき)国の一部になるとあります。第二のキリストの

ために引用したまでです。って、人間の教義や教えを裏書きしてはいないということを示すれは人間死後の問題についてブラザーズの教えに一致するのであれは人間死後の問題についてブラザーズの教えに一致する限りそに必ずしもあてはめようというのではなく、聖書に関する限りそ以上の説明のすべてを私はこれから先に起こるブラザーズ問題

伝えるのにこの世界は全く準備ができていないために、現在の段ようとしないのでしょうか。それはつまり、かかる重要な知識をもし彼らが自らを一般人に知ってもらいたいのなら、それは一夜はまだ機が熟していないということです。これは真実なのでしてはまだ機が熟していないということです。これは真実なのでしてはまだ機が熟していないということです。これは真実なのでしてにのは、ブラザーズが世界中に知られるために公然と現われるに記事をとにかく全部読んで下さい。私がこれまで幾度も述べてき記事をとにかく全部読んで下さい。私がこれは真実なの書く

階ではその知識を受け入れることはできないからです。

I・S・J) 地としている遊星人から援助を受けるでしょうか。(ベトナム、(質問六) 米国またはソ連が月に到着した際に、月をすでに基

ことが先決問題です。
が明るみに出されるほどにこの世界の知識のレヴェルが向上するが明るみに出されるほどにこの世界の知識のレヴェルが向上するともわかるでしょう。この問題について未だ隠されている諸事実たとき、ア氏のその他の記事をも信じないでいるほうが困難なこ月に関するアダムスキ氏の記事が真実であったことを人々が知っ

宇宙哲学をのる

G・アダムスキー

感情のバランス

誰もが知っているように世界中には大きな不安が存在している。 関在存在する均衡を失った有様を全く明らかに示している。 で教会へ復帰せしめ、新しい教理に関する解答のすべてを知って で教会へ復帰せしめ、新しい教理に関する解答のすべてを知って いると称する導師たちに多くの人々をしたがわせている。しかし いると称する導師たちに多くの人々をしたがわせている。しかし がったでいることを知っている人は殆んどいないのである。 やめて迷っていて、彼らが家庭と呼ばねばならぬ世界に関して不 力めて迷っていて、彼らが家庭と呼ばねばならぬ世界に関して不 力めて迷っているととを知っている。彼らは別な遊星の住 人になる特権が与えられる時日に向っている。彼らは別な遊星の住 人になる特権が与えられる時日に向っている。彼らはこの世界で さのである。

都』であるから」

とを一体化させ、観念論と実際主義とを結合し、天空の平安と美スへと次々に運ばれてきている。しかし、非個人的な人は天と地おり、それゆえ一つの間違ったバランスから別な間違ったバラン教師と学生たちは天と地とを分離させるという誤ちをおかして

合であるから。またエルサレムをさして誓うな。それは『大王のとを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらすものである。現在のこの世界で楽とを地上の物質主義にもたらする。

原因の場である天、結果の場である地、及び地球の住民を表現原因の場である天、結果の場である地、及び地球の住民を表現原因の場である天、結果の場である地、及び地球の住民を表現の場である。というのは、そうすることにおいて人間は他を審いなくて一体なのであり、そのおのおのが他方を表現しているのでは人間が甲を乙よりも偉大だとはいえないのである。この教えは差するために象徴的に用いられた言葉ーエルサレムなど、これらは大間が甲を乙よりも偉大だととなえる場合にその意見としてのなるではかのなかの欠くべからざる一部であるからだ。分裂というものは人間が甲を乙よりも偉大だととなえる場合にその意見としてのみ存在する。というのは、そうすることにおいて人間は他を審いなるである。というのは、そうすることにおいて人間は他を審いて自分を「創造者」の上位に置いているのである。

してその家庭を美しい、神聖なもののある庭、"父"の実際の庭の地球という家庭に関して知るためのものであることを悟り、そ所で生きることを望むかわりに、そこにあるすべてのことは現在で少、が立つための土台である。それで、人間はどこかの他の場天から原因と創造の力が来る。そして"父"の御座である地は、

として認めねばならない。

である。

せまれつきあらゆる人間は自分が見出そうと努力しているとこ生まれつきあらゆる人間は自分が見出そうと努力しているとといい理想をかかげて出発しているが、しかしそのメンバーたちの誰い理想をかかげて出発しているが、しかしそのメンバーたちの誰いのである。多くのグループが高らの或る理想的な生活を意識している。しかし各人はこの天空が生まれつきあらゆる人間は自分が見出そうと努力しているとこ

るのである。 人間は生命の目的を理解し始め、感情のバランスという利益を得人間は生命の目的を理解し始め、感情のバランスという利益を得な結果を超えて考えるためにその肉体の感官の心を抑制するとき火花は、『宇宙の因』から決して分離していない。人間が外形的人間を形あるものとして表現せしめるところの絶えざる生命の人間を形あるものとして表現せしめるところの絶えざる生命の

実にたいして盲目となるからである。アンバランスな行為という渦巻きのなかへ引っ張り込み、彼は真感情の力はきわめて破壊的である。というのはその力が行為者を個人の意志が他人の意志によって邪魔されるときに心に起こる

てキィは我々の反応にたいして寝ずの番をすることである。そう覚する想念である。各瞬間はその前の瞬間に続くのであり、そし人間が現実に存在するすべては―――彼が束の間に意識的に知

うな想念になるだろう。すれば次の想念は我々の心の家屋のなかで楽しむことのできるよ

態を明瞭に見ることができるという意味である。ス・マインドが静まってその感受性が鋭敏になるとき、それは状て知的な討論があってはならないというのではなく、肉体のセンそれは時間と労力の消費者であるからだ。このことは問題についが人間にどれほどの利益をもたらすだろう。何にもなりはしない。個人的な意見の上ではあまり口論が多すぎるのであるが、それ

ぼし、本人に衰弱または病気を感じさせることになるのだ。状態のもとで保たれる感情のバランスが基本的なものである。これは更に神経系統や肉体細胞にも影響を及期待のいずれによってひき起こされるにせよ、血液中に入る或る動運動を妨害する。興奮というものはそれが極端な喜び、恐怖、動運動を妨害する。興奮というものはそれが極端な喜び、恐怖、動運動を妨害する。興奮というものはそれが極端な喜び、恐怖、動運動を妨害する。

自 由 意 志 カ

眠

か

5, 「助けたいと思い、憎悪があったところに愛と解釈される感情が湧 催眠効果にほかならないことがわかるのである。 き起こってくるけれども、教会の外へ出ればこのような気持は変 続けるのである。教会のなかでは自分の欲求にしたがって他人を じさせる傾向がある。出席者の殆どは世俗的な仕事にかえってか るのもあるが、その行事が終ったあとは甚だしい "たるみ 式のあいだに一時的な陶酔を起こす礼拝や誓いなどを行なってい 実の悟りをもたらしてはいない。これらの宗教団体のなかには儀 かされている諸法則にしたがって生きている人たちに来るのであ ってしまい、それが出席した際の行事によって起こされる一種の をもたらすからだ。 この二つを選ぶ選択権はあなたにある。今日の活動は明日の報 そしてかかる敬意は感激性や自己催眠を含むものではない。 かくて人間は兄弟の保護者であるかわりにその兄弟を利用し 適者生存の態度が待ちかまえているところの旧習にたちかえ 教やいわゆる精神上の指導者たちは、大抵の場合、人類に真 ― "すべてを創造する生命の原理 に敬意を表する人に 楽しむべき報酬は、因の知性、によって働 を感

眠術師の意志の犠牲になり、如何なる想念が与えられようともそ ても間違いではないだろう。もし被術者がそうするならば彼は催 暗示してそれを相手の心にしっかりと保つように頼むのだといっ 催眠術師が被術者を意のままにしようとするときは、或る物を

> 信じさせることができる。被術者にこれはリンゴだと暗示してタ く推理力をも失っていることを示している。 ることはできない。そしてそのことは被術者が意志力ばかりでな マネギを食べさせることもできるが、被術者はその相違を見分け れに従わさせられるのである。術者は被術者に語ることを何でも

ある。 法を行なったもっと利口な人にとってたやすく餌食になったので 俗人たちは感動的な催眠状態になり、このためにかかる礼拝の方 むかし宗教は右のようなやり方で大衆を支配した。 魂を求める

ることはただ『聖霊』に支配されたということなのだ。このこと るかと尋ねられると、彼らは知らないと答える。彼らが感じてい のである。この熱狂状態から覚めて、自分が何をしたか知ってい の如く平常の意識あるときには絶対にできないようなことをする は非常に熱狂的な感動の状態におちいるので、ついには夢遊病者 れた)に出席したことがあるだろうか。この集会では参加者たち ジスト派の人々の行なう数日にわたる宗教的集会。米国で始めら の力を奪ったことを示している。 は彼らが或る力のもとにひき込まれ、それが彼らから推理と意志 あなたはキャンプ・ミーティング(訳注。野外集会。主にメソ

らない。ほんとうの信仰は自己催眠の状態ではなく知ることであ してあらゆる行為は意志の自由な意識的な状態で実行されねばな 若返りは扱われる諸条件の理解を通じて得られねばならない。そ 癥を証明しつつあるけれども、しかし永久的な治癒または肉体の て起こされるこの感動催眠を用いている。無数の人々が病気の治 自己喝釆している或る新興宗教団体類はさまざまの方法によっ

ばならない。 は、人は思考し推理する人間として存在することをやめるのである。人間は自己の存在の力(複数)を理解して、自分の生活に望る、人間は自己の存在の力(複数)を理解して、自分の生活に望らしての。 因の意志。が制限されたり他によって支配されるならきにまかせることである。この。 因の意志。とは人間であって、きにまかせることである。この。因の意志。とは人間であって、り、個人的な自我の意志を。完全なる英知をもつ因の意志。の導

のである。羊小屋に入る道は一つしかない。それは理解の分野にはなくて自制によるのである。常道から踏みはずれた意志はあらたれなる意志の抑圧によってはいつまでも減少されはしないのだ。まれればならない。感動というものはきわめて容易に幻想的な結ませる出し、個人を一時的な恍惚状態に高揚させるのであるが果を生み出し、個人を一時的な恍惚状態に高揚させるのであるが果を生み出し、個人を一時的な恍惚状態に高揚させるのであるが果を生み出し、個人を一時的な恍惚状態に高揚させるのであるがの高志に自我の意志を変化させることなどをもたらし得ないのだ。な因の意志に自我の意志を変化させることなどをもたらし得ないのである。羊小屋に入る道は一つしかない。それは理解の分野になる内体の意志の抑圧によるのである。羊小屋に入る道は一つしかない。それは理解の分野になる内体の意志に自我の意志を変化させることなどをもたらし得ないのである。羊小屋に入る道は一つしかない。それは理解の分野になる内体のである。

志の系統的な訓練とによるのである。おいて意識的な知覚力を拡げることと、意志を弱めるかわりに意

る。を恐れよ」この個別化された魂とは人間の推理力と意志の力であを恐れよ」この個別化された魂とは人間の推理力と意志の力であまりストは言った。「肉体を斬る人を恐れないで、魂を斬る人

すことになるのである。
新しさ、絶えまなき活動、想念の発達、考えの置きかえなどは新しさ、絶えまなき活動、想念の発達、考えの置きかえなどは新しさ、絶えまなき活動、想念の発達、考えの置きかえなどは新しさ、絶えまなき活動、想念の発達、考えの置きかえなどは新しさ、絶えまなき活動、想念の発達、考えの置きかえなどは新しさ、絶えまなき活動、想念の発達、考えの置きかえなどは

信

佘



能力を説明するのに困難を感じているのである。生活の基本的な能力であると主張しているけれども、この特殊な学者などすべてが信念を発達させることをすすめており、これが学者などすべてが信念を発達させることをすすめており、これが信念とはおそらくこの世で最も広く論じられた話題の一つであ

表現であるので、先ずその分析から始めて次第に信念に及ぶこと要がある。この二つは一本の竽の両端なのである。恐怖は低次な怖だ! それゆえ、一方を理解するためには他方をも理解する必それならば信念の反対になるものは何だろう。いうまでもなく恐いることを知っている。信念は人間の性質の陽の面の一つである。われわれは現象の世界における万物が陽と陰との性質をもって

理"または"因"に基づいているのである。

理"または"因"に基づいているのである。

の状態によ。て生み出されることがわかる。殆どあらゆる場合に恐怖は人間の個人的な存在または私利に焦点が合わされた生きていて、自己維持のために外界の物事に頼っているのである。そして外界の結果の不安定さについての認識は自分の心のなかに生きていて、自己維持のために外界の物事に頼っているのである。そして外界の結果の不安定さについての認識は自分の心のないに生きていて、自己維持のために外界の物事に頼っているのである。ということができる。恐怖は結果に基づいており、信念は、恐怖は自己性別のである。殆どあらゆきる、そして外界の特別である。ということができる。恐怖は結果に基づいており、信念は、。別とあらゆきる。おいれわれが恐怖を分析するならば、それが自己維持と安全に関せ、または、の人は生活上の諸活動を自分に表しているのである。

念」ではなくて「一粒のカラシ種ほどの信念」であることに注意れてきた。しかしこの言葉は「一粒のカラシ種と同じ大きさの信といえども現象を生み出すのに必要であるかを示すために用いらあそこに移れ』といえば移るであろう。このように、あなたがたちとに移れ』といえば移るであろう。このように、あなたがたキリストの次の言葉は何度くり返されたことだろう。「もしカキリストの次の言葉は何度くり返されたことだろう。「もしカ

の力がそんなふうに生長するようにと命じるからである。の力がそんなふうに生長するようにと命じるからである。その内部の大いかどうかと考えられるのである。カラシ種の意識を調べてみよう。れていると考えられるのである。カラシ種の意識を調べてみよう。の衝動だけをその種子は知っている。その種子はなの内部にあるとの方に抵抗しようとはしないし、こんなふうに活動させるのは、そのの方に抵抗しようとはしないし、こんなふうに活動させるのは、そのの方に抵抗しようとはしないし、こんなふうに活動させるのは、そのの方に抵抗しようとはしないし、こんなふうに活動させるのは、そのの方に抵抗しようとはしないし、こんなふうに活動させるのが正しいかどうかと考えたりもしない。それは疑いもなくその目的の法則または原理にしたがって活動しているのである。それはもろもの方には近ないのだ。それは生長して藪となって広がる。その内部にあるとの方がそんなふうに生長するようにと命じるからである。

子は土、空気、水、 とすれば一体どうなるだろう。その衝動に抵抗しないことによっ 同 てのより広い概念に関する新しい考え方に疑いをさしはさむのと ある。人間が自分の心に印象づけられようとしている生命につい それはただ生長すべき時機が来たと感じるまで忍耐強く待つので ないし、内部からのあの衝動なくして生長したがったりはしない。 種子は寒い冬のあいだに地面から首を出すように命じられてはい が種子を生み出すために一体となっているのである。 ないだろう」と。 "因"の英知の命令にしたがっているので、必要な要素のすべて 様に、もし種子が生長しようという衝動に疑いをさしはさんだ ここであなたはきっと次のように言うだろう。「

しかしその種 これは事実だが、しかし種子は、宇宙、または 太陽などの援助なくして生長することはでき カラシ種の

うのは、想念または欲望は外界の状態を生み出す実際の、原因。よってのみ実現させないようにすることができるのである。といい。欲望というものは行為に抵抗しながら個人的な意志の努力にい。欲望ということ、そしてもし意志に基づいて行動するならば有益な結果を生み出すことなどを人間は確信するにちがいな非個人的な考えまたは望みが起こるならばそれは一つの目的を求非個子が美しいヤブに生長するように、人間も同様にして、もして種子が美しいヤブに生長するように、人間も同様にして、もし

へ生長することなのである。生長することである。すなわち、結果から万象の背後にある原因生長することである。すなわち、結果から万象の背後にある原因人間における信念の発達は個人から非個人的な知覚力の拡張へ

認識によるのである。 信念が確立されるのは "因"ので今や自分自身を再建する過程にある。人間は "原理」との一本た。人間の肉体の感官の心は "宇宙の因" の記憶を失った。それた。人間の肉体の感官の心は "宇宙の因" の記憶を失った。それた。人間の肉体の感官の心は "宇宙の因" の記憶を失った。それたの発達があるだけだ。導師ゾロアスターが説明したように、念への発達があるだけだ。導師ゾロアスターが説明したように、完全な不信というものは存在しない。小さな信念から大きな信認識によるのである。

そんな恐怖をもちはしない。そしてこの場合にわれわれが疑わなをあなたは聞いたことがあるだろうか。ないだろう。われわれは続くことを予想して激しい不安に両手を握りしめている人のことろう。毎朝、夜明けになる数時間前に起き上がり、永遠の暗黒が太陽が毎日昇ることをなぜわれわれは心から確認しているのだ

こるにまかせるだけだ。 自分を関係させたりすることはしない。ただそのような活動の起身の個人的な無力さを悟り、それについて人間的な努力を払ってがての活動を理解し永続せしめている。この場合、われわれは自べての活動を理解し永続せしめている。すべてを知る原理。の御い主な理由は、太陽や遊星の活動はわれわれの肉体の心が考え得い主な理由は、太陽や遊星の活動はわれわれの肉体の心が考え得

っているからである。 せなら再度いうとわれわれはこのような活動を支配する原理を知上へ帰って来るだろうかと疑うだろうか。そんなことはない。なと気にかけるだろうか。またボールを空中に投げ上げてそれが地するだろうか。重い物を落としてそれが再び持ち上がればいいがするだろうか。重い物を落としてそれが再び持ち上がればいいがするだろうか。重い物を落としてそれが再び持ち上がればいいが

われわれが恐怖心を除き得るのは物質にたいする自信にかかっる。さもないとわれわれは意識ある生ける存在とはならないだ然と認めようが認めまいが、われわれはそれに気づいているので然と認めようが認めまいが、われわれはそれに気づいているので然と認めようが認めまいが、われわれはそれに気づいているのでなる。私が"生得の"というわけは、信を生みある。さもないとわれわれは意識ある生ける存在とはならないだめのではなく、物質を支えて制御している原理にたいする生

へ注意力を向けるならば、われわれは十分に目覚めるようになりわれわれの義務なのである。われわれがこの内奥の導きの力の方すべてを集中させるかわりに『原理』そのものを探求することがそこで『原理(元になる源泉)』 の結果にわれわれの注意力の

信とは実はより以上の知識と活動の確実性を包括するために意識 ど万物が漸次変化してゆくように徐々の生長を通じて来るのだ。 易に達成できるものではないことがわかる。 化は起こり得ないのである。それゆえ、われわれは完全な信は容 的な知覚力を拡げることなのである。 な理解という道からそれて離れてしまうまでは、右のような一体 種類の恐怖をともなう利己主義の想念のすべてが、障壁から自由 自我を解放した時は決してなかったのである。それゆえ、 接の結果を見ていないかぎり、この内奥の力にたいして個人的な と、全体。との一体化の結果であっ あらゆる生命の相互関係を感じるのである。人間が活動の或る直 人間の信は増大してその結果恐怖は減少するのである。 との一体性に十分に気がつくようになればなるほど、 て、結果的に起こるあらゆる ― それはちょう 信は人間 人間が

道



中国の諺のなかに「千里の旅は一歩から始まる」という意味の言 |わるくないと思われる多くの知恵の言葉を後世に残している。 東洋の賢人たちは人間の生き方についての道標として用いるの

る無数の団体の主張のさなかに、そしてさまざまのうつろいやす この頃のように間断なき活動と無数の新発見の行なわれる時代 また宇宙人とコンタクトしたとか指導を受けているとか称す

> っていることである。—— としながら、一方では伝統的な信念や意見などの狭い概念に固執 数の人が膺新な宇宙的な生命のなかに前進しようとしながらもや 歩みは完全なものでなければならない。我々は片足を前方に出し しているのだ。 こんなことでは進歩したことにならないからだ。しかしこれは多 たまま片足を古い習慣のなかにとどめておくわけにはゆかない。 古い習慣から自分を脱出させて新しい習慣の道に沿って出発する らゆる活動にもあてはまることで、統一された生命を生きるため が、一時に一歩しか歩めないのだ。その方向に入間を運ぶのは前 という考えのもとに右の知恵の言葉をよく味わって自分自身を安 には、一時にただ一歩だけを必要とするのであるが、しかしその の出発においても全く真実だといえることである。きまりきった 方か後方への第一歩なのである。このことは我々の日常生活のあ 定させるのもいいことだろう。 い環境のなかにあって、活動(または行為)はただ一歩で始まる ! " 四 目標が如何に遠かろうが近かろう の広大さのなかに前進しよう

いつまでも神秘の夢を見続けるだろう。 の立っている地点から自分を解放して一歩を踏み出さないかぎり より大きな知識の方へ自分の視力を向けるかもしれないが、自分 い人はいつまでも同じ古い習慣のなかにとどまるだろう。本人は 進化の道を歩むには勇気と信念を必要とするのである。疑い深

日を送っ なっていたことだろう。 世界の港に停泊させたまま、ただ新大陸の夢ばかりを見ながら つて故国から船出した先駆者たちが信念と勇気を失い、船を ていたとすれば、 この国 (訳注。米国) は今日どんなに

旧

の勇気をもっていた少数者にその功を帰せられてよい。 日楽しんでいる多くの物事は、新しい知覚の領域に突入するほどの科学的発見は未だに"因"の領域にあることだろう。我々が今の科学的発見は未だに"因"の領域にあることだろう。我々が今の科学的発見は未だに"因"の領域にあることだろう。我々が今の科学的発見は未だに"因"の領域に第一歩を印しようとは、大類が恩恵に浴している無数の勇力を帰せられてよい。

をさえも含んではいない。 貯蔵庫のすべては、宇宙の貯蔵庫内に保存されている知恵の発端 正しい行為である。さまざまの文書が秘蔵してある地上の知識の いずれかへ行かねばならない。そして上方への歩みこそとるべき 由に前進できるのである。静止というものはない。 その場所が活動の世界にあっても事実の世界にあっても人間は自 必要はない。人間が束縛されるべき場所というものは存在しない。 のであれば、崩壊の状態、または静止した精神状態のままにある 踏み入れて永続的な進歩の学校で研究する特権が与えられている から知識と進歩へ導くのである。誰もが新しい物事のなかへ足を たことだろう。 ののみの世界にとどまったとすれば、我々の存在はどんなになっ 運ぶということは真実であるが、もし我々がいつも目に見えるも 生命の全体のなかへ足を踏み入れることが我々を未踏の世界に 如何なる問題をも探求することはわれわれを沈滞 人は上か下の

もろもろの事実の絶え間なき啓示の道にだ。る ―――制限や束縛を知らない『因』の研究所内にのみ存在する一歩踏み出せば人間は永遠の学習の道に足を印することができ

す限度以上に急速に旅をしないよう忍耐のレッスンを学ぶことでしかしあなたが第一歩を踏み出した後は、あなたの理解力が許

になるかもしれない。 一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたはその路上にあるだろうが、前方には無数のある。一歩であなたが或る目標に到着してもなお、前方には無数のある。一歩であなたが、だけに無数のある。一歩であなたが、前方には無数のある。

うこと、及び生命は活動であるということである。 大切なのは、若さは絶えず新しくされる想念の結果であるとい

行なわれねばならない。そして信念のみが我々に真実を洩らすのきが何をもたらすかはあなたにも私にもわからないが、その旅はを必要とする。———— われわれの現在の視界を超えて存在する広を必要とする。———— われわれの現在の視界を超えて存在する広を必要とする。——— われわれの現在の視界を超えて存在する広でかれればならない。そして信念のみが我々に真実を強み出してもそれが進化なのだ。如何なる達成の分野に第一歩を踏み出

の領域へ思いきって進むにつれてこれからまだどんなに多くを学地上の生活を通じてわれわれは多くを学んできた。しかし"因"

ただ一つの犠牲、すなわち古い習慣的想念の解放が、あなたがこれおではない ただ一歩の強邦にとっては、真理は秘され得ないのだ。いる。心の勇敢な人の視界にとっては、真理は秘され得ないのだ。いる。心の勇敢な人の視界にとっては、真理は秘され得ないのだ。いる。心の勇敢な人の視界にとっては、真理は秘され得ないのだ。れまではない ただ一歩の踏み出しそのものが、これまでわれまでになっては、よくとになるだろう。われわれが結果の世界でこれまでに知っていまでとになるだろう。われわれが結果の世界でこれまでに知って

編集後日



謝の念は或る広い範囲にまでひろげられねばならないようです。 刊行されました。この書の出版にあた。 だの遇然だとは思えません。出版に至るいきさつなどを考えます ダムスキ氏の著書が)中央から出版されましたことは、 次第です。現在国内では円盤関係の図書を刊行することがきわめ の真相。と題して、私の拙訳になる邦訳版がこのたび高文社から Saucers Farewell 困難な状態にあるにもかかわらず、 何か見えない力が働きかけていたような気がします。私の感 かねて本誌で概略を紹介しましたアダムスキ氏のFlying "日本GAP のメンバー各位に厚くお礼を申し上げる (円盤との訣別) は "空飛ぶ円盤 この種の訳書が(しかもア て絶大なご支援を寄せら 私にはた

一四一七五〇)定価三五〇円、送料五〇円」下さい。「東京都文京区森川町七〇、有信堂・高文社(振替東京個所の大部分はこの書をお読みになることによって氷解することの続篇でありますから、。同乗記』中の記事で判然としなかったの議にありますから、。同乗記』中の記事で判然としなかったの意はついて、の書はつきに出された。空飛ぶ円盤同乗記』

宗教とい れは人間の内部に存在する或る未知の能力に誰もが気づいてい 当らず、自己解釈による実存主義が栄えるわけですが、しかしこ らず、せんじつめれば真実の魂のカテといったものはどこにも見 義をウ吞みに信じ込むことも共鳴による思考力停止作用にほかな えていることは否定できません。主観的観念論も唯物弁証法もひ おらず、結局あらゆる主義・思想はしょせん人間の頭脳からひね これまでの如何なる哲学とも異なって、テレパシー (精神感応) 0 はゆきませんが、私にはどうも主義のための哲学、主義のための いからではないでしょうか。もちろん過去の宗教や哲学のすべて とつの思惟方法であるにせよ、個人の理解力、魂の目覚めといっ り出された理論の空転にすぎないのだといった印象を一般人に与 の哲学や精神科学、 新しい方向を示した点にあります。 という現象が存在する事実を伝え、人間の生きる道について全く は社会に何らかの影響を与えていますからそれを無視するわけに たものをさほど促進するものとは思われませんし、また何かの教 のもつこの潜在能力を夢想もしなか。たことでしょう。これまで 私がアダムスキ氏を支持致します理由の一つは、 た感じがします。それらのあいだに理論上の闘争の絶 宗教などはテレパシーの可能性までは説いて かつての哲学者の殆どは人間 氏の哲学は

いだけです。教を作り上げたのは後世の人間で、現在あるものは宗派の勢力争数を作り上げたのは後世の人間で、現在あるものは宗派の勢力等しいことに私は非常な魅力を感じますが、キリスト教という大宗えまがないからです。イエスがテレパシーの能力をもっていたらえまがないからです。

葉のあやで何かの概念やへ理屈をこねまわしたりするのではなく うに信じて振舞うべきだ」と断言する或る種の宗教の教義は私に る努力だけでも、人間のゆがめられた精神状態を自身の力で正常 求を必要とするようですが、しかし各感官の心をコントロールす 発することは至難事です。私が練習してみたところでは生涯の探 存在することは科学的に立証されています。しかしこの能力を開 らです。論理的に考えても動物以上に驚異的な複雑な構造をもつ をも、ているのに人間はそれよりも或る意味では劣るといえるか ソだとは思えません。或る種の動物が明らかにテレバシーの能力 えれば個人の感受性を開発することなのですが、そのためには先 が可能になるほどに万物と一体化することを意味します。 人の頭脳から生み出すことではなく、人間相互の精神波動の交流 人体という受信機の感度をうんと高めて "自然"の放つ波動を感 なくて「自己の感受力でもってそのように感じ取れるようになれ ムスキ氏の価値を見出すのです。「人間は神の子だから、そのよ に戻そうとすることになりはしないでしょうか。私はそこにアダ は不合理に思われます。「そのように信じて振舞うべきだ」では 人間がこの能力をもたぬ筈はなく、また実際にテレバシー現象の アダムスキ氏の説く哲学やテレパシーはかかる主義・思想を個 自然。にたいする観察が重要だというア氏の言葉は私にはウ たほうがよいだろう」といいたいところです。言

勢が集まって夜空に向かい「ベントラ」と念じたり呼びかけたり れは『自然』のもつ調和性を観察すればわかることです。そこで 発できるというア氏の説明は全く正しいものだと思われます。こ 遠隔地を透視したりすることなのですが、病人の原因不明の患部 じ取ることを意味します。具体的には、無言の会話を交わしたり 訳新版を出そうかと思っています。ただし、 が、私の拙訳になる邦訳版は絶版になっていますので、いずれ改 受力を開発することを意味するのですから混同なさらないように ません。氏のそれは、自然、と一体化することによっ くテレパシーの自己訓練はこんなことをすすめているのではあり すれば円盤が現われると信じられていますが、アダムスキ氏の説 或る意味でいえば進化は個人的なものであると申せましょう。 そしてこのテレパシーの能力は主義や教義をとなえて自己拡張を そこまでゆかなくては本当だといえないのではありますまいか。 安全な場所へ退避することも可能となるでしょう。人間の世界は を採知して適切な処置をとらせることもできましょうし、 す。たとえば、テレパシー観測会なるものが開かれたりして、多 く、自己を中立化せしめて万物のなかへ没入することによって開 はかったりそれに同調したりすることによって得られるのではな みたいに大地の波動を感受してせまり来る激変を予知し、事前 「みんなそろって一緒に」というわけのものではないようです。 テレパシーについてはさまざまの解釈が行なわれているようで -- ° 詳細はアダムスキ氏著 "テレパシー" いつのことになるか に述べてあります て個人の感

アダムスキ氏はこれまでに一貫して自己の体験の真実性を主張わかりません。

ありますが、GAP側の専門家によりますと、これが実現するの 階としてはそれもやむを得ないことでしょう。最後的な確証とし 後に説明不十分な個所があったり矛盾するような文章があるかも はさほど遠くはないということです。 ては人類が月なり他の遊星なりに到達して事実を見て帰ることに すが、逆に事実として確認されると沈黙するのが普通です。現段 す。人間というものは攻撃するときは誇大に表現したがるもので が、しかし氏の体験はロケット類によって次々と確証されていま しれません。そこで、言葉尻をとらえて攻撃する人があるのです なかには公表できない事柄もあるでしょう。したがって文脈の前 べてを数冊の書物で説明し尽くすことは誰しも不可能でしょうし あるということになっています。しかし長年月にわたる体験のす し競けてきました。氏の体験記類はすべて事実に基づいた記述で

ある。日本GAP。の仕事をやめることはありません。皆様のご で出したいと思っています。私が健在な限り世界GAPの一環で 力をたまわれば幸甚に存じます。一日も早く機械を入手して月刊 まだかなりの開きがあります。如何程の額でも結構ですからご協 千五百円に達しまして心から感謝致しておりますが、目標額には てできたものです。ただし機械を入手できるまでは定期に出せる くお礼を申し上げます。寄せられた浄財も八月末現在で計一万五 ましたところ、早速賛同と激励のお手紙を多数いただきまして厚 かどうかわかりません。先号でタイプライター購入計画を発表し ーを入手していません。本号は益田タイプ印刷所のご好意によっ 本号からタイプ印刷にします。しかし私はまだタイプライタ

通巻第十二号

日本はADニューズレター

1962 九月-十月号

久

編集発行人 行

所

保

田 八

郎

島根県益田市益田古川

H 本 G Α P

印

刷

所

益

田

1

プ

昭和三十七年十月十日発行

頒価 1〇〇円 (送料共)

(久保田)

健康をお祈り致します。